

LONG TERM CARE MAGAZINE

NEWCOMER

変わりが続けていくもの。
それが僕にとっての介護。

Person

02

NEWCOMER WORK LIFE

大坪優也

YUYA OTSUBO

PROFESSION
CARE WORKER

LONG TERM CARE MAGAZINE

TOP RUNNER

”今より良く“を諦めない。
それが私にとっての介護。

Person

01

TOP RUNNER WORK LIFE

宮本隆史

TAKASHI MIYAMOTO

PROFESSION
DIRECTOR



NEWCOMER WORK LIFE



今年、介護士2年目の大坪優也です。趣味はロードバイクや料理で、休日になると朝から晩まで走ってみたい、行きたいスポーツを決めて走ったり料理を作ったりしています。

幼い頃から介護の仕事の印象は良かった。父も介護職だったので、小さい頃からよく職場に連れて行ってもらっていました。父親と職員との関わり方を見ていて「仕事をしている姿が楽しそう」という印象でした。

介護の仕事は「マニュアルどおり」だけではない

介護の面白いところは、現場で仕事を分析出来るようになることですね。例えば寝てくれない利用者の方がいても無理に寝かせようと躍起になるんじゃないかと話をしていきます。深夜のナイショのお茶会ではないのですが、無理に寝かせようとせず話を聞く姿勢で側にいると、話をしたあととスッと安心して寝てくれることも多くあって。マニュアルどおり以外の部分で利用者の方との関わり方を分析して行動すると、早い段階でうまく仕事が回り出したと感じられる瞬間がやってくる。そこが介護の仕事の面白いところですね。

優先付けと提案力は大切

大事なことは、まず優先順位をつけることと、提案力だと思っています。僕は介護職2年目ですが、大体できるようなになったから、もう大丈夫、ではなくて、マニュアルルは変わっていきものです。



僕にとつての介護⇨変わり続けていくもの

今の時代、新しい料理家や、新しいレ

自分は若手だから、まだ意見や提案は言つてはダメとかではなく、今より良くなりそう、現状が変わればもっと利用者の方や働く側の環境も良くなるのでは？と思うことは先輩に対しても常に提案することを心掛けています。

新人がもっと発言できる未来にしたい

若い人がもっと発言力を持つことって変わっていくために大事ななと考えています。

僕自身、やがては30代、40代になるわけですが、その時代に入ってくる若い人たちが上の人に言いやすい環境、発言力が持てるような介護職の未来にしたいと考えています。社会に「この業界がないと困る。必要だ」と思わせられるような、何か大きな変化を起こして介護業界を変えられたらもっと良いですね。

Message 読者へのメッセージ
介護の仕事には、働いてみないと分からない、気の配り方だったり、観察眼だったり重要なことがいっぱいあります。特にこれから介護の仕事をやろうと思っている人にはプライドや誇りと自信を持ってこの業界に入ってきて欲しいと思っています。

SOU/THINK 読者へのメッセージ
10本で構成されたラインは「寄り添いの手」を表現しています。主軸となる両端のラインの距離感は「扱い歩く」ことであり、ラインの流れで「治う」から「添う」への動きも意味します。はしこをひねったような形はDNAの造形からもヒントを得ており「若い世代が介護の仕事の本質を引き継いでいて欲しい」という願いを込めています。そう！「添う」ことはもちろん、「治う」ことは介護の本質的な仕事。介護の仕事って、そうだったんだ！

TOP RUNNER WORK LIFE



宮本隆史です。介護職の管理全般を担当しており介護職16年目です。趣味はバイクで走ること、お酒も好きで自分で料理を作ったりもします。

働く遊ぶ。自分が成すことは一緒と思っている

本当に遊ぶことが大好きです。プライベートも充実しています。例えば、私の実家は、自宅から車で1時間半で着くので、2連休があれば実家に帰って、地元の人々とワイワイガヤガヤお酒を飲んだりしています。働くことも遊ぶことも同じぐらい面白いので、異なるようで一緒だと思っています。

謙虚さ・自信・社会貢献

一番大切にしていることは謙虚であること、そして自信です。失敗をするのは大いに結構だと思っていますが、失敗をそのままにしておくことは大問題だと思っています。

プロジェクトリーダーになった当初は責任が重いという印象もあり最初は「ちょっと嫌だな」という気持ちは正直ありました。でも、ある日「嫌だな」から「余裕や自信を持っている自分」にパチッと切り替わった。そのきっかけとしてより多くの人に様々なメッセージを届けたり、気持ち良く働いてもらうようにしたり、組織を前向きに働いてもらえるようなベクトルに向けたという点で、今まで学んだことや知識、体験も活かされてフツとしたときに「自信」につながっていたのは記憶に新しいですね。

また、地域や社会などに、いかに貢献していくのかということも極めて重要であり社会貢献は自分の仕事の中で非常に大きいテーマです。

一歩先ゆく介護をするには

どのような時代も、「今より良く」を、考えないとイケませんよね。

Message 読者へのメッセージ
介護職という仕事をフラットに見てもらいたい。社会にも貢献できるし、人との関わりを通して感謝もされる。これからは絶対必要とされる仕事であるということも間違いないです。すごい過渡期で変わらなきゃいけない業界なので、まず「自分が何かしよう」「何か形に残そう」と考える人にとっては特に、成果が出やすい業界なんじゃないかなと思います。



国の表現で言うと科学的介護と言いますが、データエビデンスを持ってしっかりとしたサービスに作り変えていこうという事をまさに今、行っている最中です。無理や無駄をなくして生産性の高いサービスをする。きちんとデータを活用するし、それらのデータを取っていく仕組みをしっかりと作る。そのデータに基づき知識、技術を持って仕事をする事で、少し違った形の介護というのが世の中に提供されていくんだろうと思っています。「今より良く」を諦めない、これが一歩先ゆく介護だと思っています。

介護の新しいサービスを広めるために必要なこと

今までの他の産業もそうですが機械化されたことにより人件費が大幅に削減されたことなどが言われています。介護業界の場合は、便利なものを導入したからといって5人で行っていた介護が3人になるとかというロジックにはまだなっていないんです。

介護保険制度がアウトカム評価になれば、機械を使って負担を減らす結果が出るでしょうし、報酬に転嫁されていくようになればもっと介護の新しいサービスが広がっていくと思っています。

今の時代の介護職について

若手と経験者のバランスを上手く取って、必要な年代層の意見がしっかりとあって、会社組織、むしろ社会がそのような所を許容できる形になっているかどうかということが、今の時代の介護現場で重要だと思っています。

